



配送エリアは関東甲信越と幅広く展開。安全のため、常に車両の整備も欠かさない

三共運輸(本社・東京都武蔵村山市、森田隆三社長)は、富士通グループのトランスロン(同・横浜市、加藤裕三社長)のデジタル式タコグラフを使い、安全対策を強化。昨年には最新機種の「DTS-CC」を導入した。通信機能を使った車両の動態把握や急加速、急ブレーキなどの動きを把握するシステムを生かし、事故防止の取り組みを進めている。

### トランスロン・ユーザー訪問

三共運輸は、関東甲信越を中心に食品輸送を手掛け、各地のコンビニや大手スーパー品を扱うため、三百六十五日

二十四時間体制で仕事を担う。

### 三共運輸

## デジタルコで安全強化 徹底した教育の基盤に

食品は定時輸送、厳格な温度管理など高い品質を求められることから、同社は社員教育を徹底。平成十六年から富士通のデジタルコを全車に導入し、速度や燃費などを収集したデータをドライバー指導に活用してきた。

「デジタルコの導入により、

複数の管理者が同じ条件でドライバーを指導できるようになった。堀拓美常務。アナログ式タコグラフのときは日報に記録された運行データをパソコンに打ち込まなければならなかったが、デジタルコ導入後はこの作業が不要に。事務員の作業負担も軽減された。



堀 拓美常務

最新機種が発売されたのを機に、昨年四月からネットワ

### 作業・コストの負担が減少

同製品の特徴は通信機を搭載し、クラウド型の運行支援サービスに対応している点。運行情報はデジタルコからクラウドセンターに随時送信され、従来使っていた運行カードが不要。カード購入費用が掛からなくなったほか、帰庫が重

なってもドライバーが待たずに済むので負担軽減につながっている(堀常務)。

〇〇〇

これまで手動だった運行支援パッケージや地図ソフトの更新は、常にクラウド上の最新版を利用可能。「地図ソフト」などは小まめな更新が必要だったが、この機種は気にし

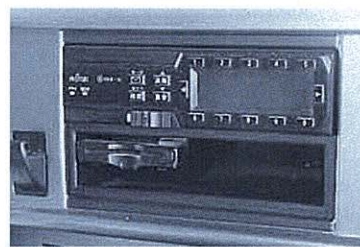
〇〇〇

〇〇〇

また三共運輸では、デジタルコに内蔵された急加速、急ブレーキなどの危険運転を正確に把握するGセンサー(加速度計)も活用。ドライバーに「生きた情報」を示し、安全指導を充実させている。デジタルコから得た情報は安全管理部の管理者が毎日チェ

〇〇〇

〇〇〇



「DTS-CC」の導入でさらなる安全性を確立した

ックし、所長らに報告。新人ドライバーには年五回添乗指導を行っているが、管理者からの指導を続けることで事故を未然に防ぐ。

### 優良ドライバー急増へ

「デジタルコは導入するだけでは意味がない。所長がデータを確認することは『ドライバーに見ているぞ』との意識付けにつながる」と堀常務。速度超過や事故が起きやすい地点などを音声警告する機能も活用することで、優良ドライバーが増え、「無事故・無違反のドライバーに出す報奨金が増え過ぎる(堀常務)」嬉しい悩みも抱える。

〇〇〇

〇〇〇